

使用済燃料の乾式貯蔵施設に反対しよう

- 関電の原発敷地内の乾式貯蔵施設は、原発の運転継続のためのものです
- 老朽原発の運転が続き事故が起これば、福井と関西は甚大な被害を受けます
- 原発の立地地元は核のゴミ捨て場となります

関電は、来年（2025年）に工事開始、2027年からの運用を計画

関西電力は若狭の3つの原発（高浜、大飯、美浜）で、敷地内に使用済燃料の乾式貯蔵施設を設置しようとしています。4月から規制委員会で審査が始まっています。

関電の原発では、使用済燃料を冷やす原発のプールがひっ迫し、3～5年後に運転停止に追い込まれます。そのため新たな使用済燃料の貯蔵施設をつくろうとしているのです。もうこれ以上核のゴミを増やしてはなりません。危険な原発は運転を停止し廃炉にするべきです。

関電の乾式貯蔵の問題点について、カラーリーフで紹介しています。

反対の声を広めるために、学習会等でも、カラーリーフをご活用ください。

発行：避難計画を案ずる関西連絡会/ 発行日：2024年4月

A4で4頁カラー版（A3二つ折り）

頒価：100部未満@30円、100～1,000部未満@20円、1,000部以上@15円 送料はご負担ください



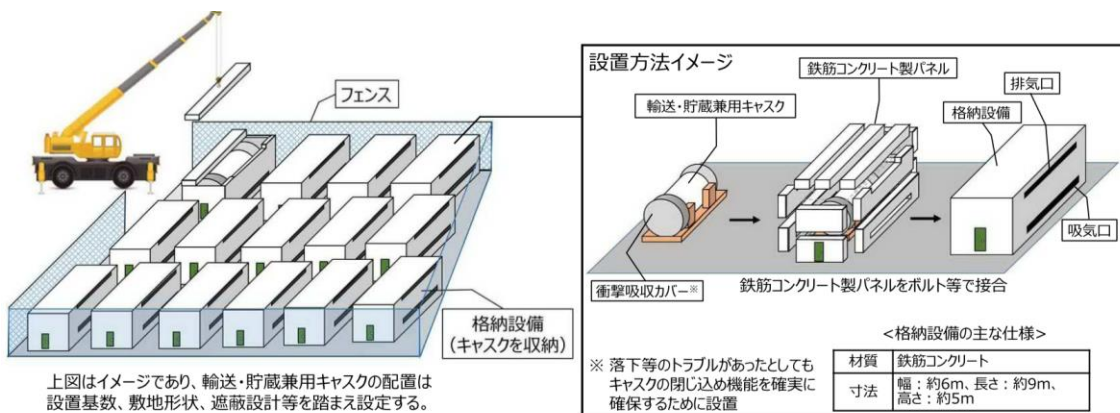
乾式貯蔵後の搬出先も貯蔵期間も決まっていない
貯蔵量も増える可能性がある

「個別格納方式」は原発敷地が狭いための方策
土砂災害等で自然冷却できなくなる危険

「密閉して放射性物質を閉じ込める」から大丈夫？
→ 中の劣化等を確認できない

異常時には、原発プールで修理するから大丈夫？
→ 50年後には原発はなくなっている

六ヶ所再処理工場は事実上破綻。使用済燃料は「有効な資源」ではなく核のゴミ



(図：関電リーフ「越前若狭のふれあい」特別号No.52 2024年4月8日)

発行：避難計画を案ずる関西連絡会：(連絡先団体) グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/ 原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会 (2024.5.2)
美浜の会でも取り扱っています。ご注文 TEL：06-6367-6580 FAX：06-6367-6581 mihama@jca.apc.org